◇　令和６年度事業計画（案）について

【資料 1】

大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会（以下「協議会」という。）は、東日本大震災の経験や教訓の伝承及び防災学習の推進に向けて、関係機関・団体等と連携しながら、防災学習ネットワーク（以下「ネットワーク」という。）に関する津波伝承施設等の紹介や津波伝承・防災学習の取組などについて、市内外に向けて情報発信を行うとともに、関係機関・団体等が相互に連携・協力して実施する事業やイベント等を支援する。

事　業	取組項目	R6　取組概要	R5　取組実績	対　象	実施時期	実施主体	予算規模
防災学習ネットワークに関する情報発信	パンフレット、チラシの活用	⑴　市内の震災伝承施設や市外の東日本大震災津波伝承館、岩手県立図書館などにパンフレットを配架し、継続的に周知を図る。 ⑵　庁内関係課と連携し、市内観光イベントや首都圏イベントにおいて、パンフレットを配布し、震災伝承施設等を紹介する機会を設ける。 【主な配架場所】 ネットワーク構成施設、道の駅さんりく、三陸鉄道盛駅 碁石インフォメーションセンター、東日本大震災津波伝承館 いのちをつなぐ未来館、岩手県立図書館 ⑶　県内高校、近隣小中学校あて、当市の防災学習・震災伝承施設を紹介するDMを送付し、広く周知を図る。 ⑷　市主催の各種会議の場において、市の取組の概要をまとめたチラシを配布し、説明を行うことで、防災・減災や震災伝承に関する意識の醸成を図る。	令和4年度に作成（10,000部）した大船渡市防災学習ネットワークパンフレットを市内外各所に配布したほか、横浜市で開催された「ぼうさいこくたい2023」において、三陸振興協議会出展ブースに配置するなど、防災学習の取組について、広く周知を図った。 【配布先】※配布数は約4,000部 ネットワーク構成施設、市内小・中学校、道の駅さんりく 三陸鉄道盛駅、碁石インフォメーションセンター 東日本大震災津波伝承館、いのちをつなぐ未来館等　26箇所	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者 ・県内高校 ・公的機関、市内事業者・団体等	・随時 パンフレット配架 チラシ配布・説明 ・イベント開催時 パンフレット配布 ・6月 DM送付	・市 （防災管理室・関係課）	－
	ホームページ等による情報発信	⑴　市公式ホームページ、SNS（X、フェイスブック、ライン）、市広報紙を活用し、震災伝承施設の紹介やイベント告知など、さまざまな機会を捉え、情報発信を行う。SNSで発信した情報は、アナリティクス等分析ツールを活用し、閲覧数などユーザーの反応を把握する。 ⑵　観光パンフレットの更新時期にあわせ、防災学習館など震災伝承施設の情報掲載について、関係課と調整を行う。	⑴　市公式HPで公開している防災学習ネットワークサイト内の情報を整理・更新するとともに、サイトにアクセスしやすいよう、市公式HPのトップページを始め、おおふなぽーと、大船渡市観光物産協会HPへバナー掲載するなど、ホームページの充実を図った。 ⑵　市立博物館では、常設展示「荒れ狂う海　津波」コーナーのリニューアル情報や発災日にあわせ「明治三陸地震津波」「チリ地震津波」に関する情報を発信した。	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	・随時 SNS発信 市広報紙掲載	・市（防災管理室・市立博物館・観光交流推進室） ・市観光物産協会	－
防災学習ネットワーク関連施設等の利用促進	防災学習館等の活用促進	⑴　震災を経験していない児童・生徒らの防災教育のツールとして、防災学習館の活用や出前講座の実施などについて、教育委員会と連携しながら、市内小・中学校に対し情報提供等を行う。 ⑵　市外からの震災に関連する視察等については、受け入れ先を防災学習館に設定するなど、視察内容に応じて調整を行う。	⑴　震災を経験していない児童・生徒らの防災教育のツールとして、防災学習館を活用いただくよう、11月に市内小・中学校に対し、施設活用の提案を行った。 ⑵　市教育委員会において、4月に防災学習館を活用した教職員新任研修（7人）を行った。	・市内児童・生徒 ・視察団体等	随時	・市（防災管理室） ・市教育委員会	－
	防災学習（まなぼうさい） ツアーの実施	⑴　市観光物産協会と連携・協力し、防災学習ツアーを実施する。ツアー日程は、「おおふなぽーとで防災ウィーク」にあわせ、令和7年3月上旬（予定）とし、ツアー内容は今後検討する。必要に応じて観光的要素を取り込む。 定員は20人程度とし、ツアー参加者は、市ホームページ、市広報紙への掲載、小・中学校へのチラシ配布等により公募する。 ツアーの実施結果を踏まえ、参加者の声などから振り返りを行い、成果の検証や反省点などアウトプットする。 ⑵　椿の里ガイドの会など観光的要素を取り込んだ防災観光ツアーの実施を関係課等と検討する。	⑴「大船渡市防災学習～まなぼうさい～ツアー」催行。 催行日：令和5年8月11日（金・祝）　／　参加者数：20人 コース：防災学習館見学、三陸鉄道震災学習列車 ツアーに当たっては、三陸鉄道沿線等利用促進事業を活用。 ⑵　大船渡市観光物産協会主催「おおふなぽーとで防災ウィーク」にあわせ、市観光物産協会と連携・協力し、「防災学習ツアーin防災ウィーク」催行。 催行日：令和6年3月2日（土）　／　参加者数：10人 コース：防災学習館、東日本大震災津波伝承館、防災×観光アドベンチャーゲーム	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	・令和7年3月上旬	・市（防災管理室、観光交流推進室） ・市観光物産協会	－
	東北復興ツーリズム推進ネットワークへの参画	令和5年7月25日、東北における復興ツーリズムの推進を目的に「東北復興ツーリズム推進ネットワーク」が設立。 当市は、観光交流推進室、防災管理室が担当窓口として参画。 JR東日本、旅行会社、自治体が三位一体となって、それぞれが持つ知見・ノウハウを最大限活かし、東北への教育旅行の誘致に取り組むものである。 参画団体は、行政50団体、旅行会社等39団体。 【R6取組予定】 令和6年5月下旬に全体会議を実施予定。	東北復興ツーリズム推進ネットワーク設立後、全体会議を3回実施し、旅行会社向けファムツアーの実施状況、教育旅行誘致に向けた課題、事業計画概要などについて情報共有を行った。	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	・令和6年5月以降	・市（観光交流推進室・防災管理室） ・市観光物産協会	－

事　業	取組項目	R6　取組概要	R5　取組実績	対　象	実施時期	実施主体	予算規模
震災の記憶や教訓等の記録・保存	大船渡市防災学習アーカイブスの充実	市内の震災伝承施設や震災遺構、復旧・復興に関する取組等のコンテンツを登録した防災学習アーカイブスサイトを運営する。 大船渡市防災学習館、おおふなぽーとに設置するデジタルサイネージのほか、市ホームページから閲覧が可能。 本年2月に完成した祈りのモニュメントや犠牲者芳名板を始め、市内小中学校が取り組む防災・復興教育などを新たなコンテンツとして追加するとともに、SNSや市広報紙でアーカイブスサイトの周知を図る。	防災学習館、おおふなぽーとに市内の津波伝承施設や震災遺構、復旧・復興に関する取組等のコンテンツを登録したデジタルサイネージを設置。コンテンツ登録件数は76件。	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	随時	・市（防災管理室） ・ネットワーク構成団体	895,000円
	3.11伝承ロードへの登録 （東北地方整備局の取組）	市内の津波伝承施設・震災遺構等について、3.11伝承ロードへの登録に向け、以下2施設の登録申請等の事務手続きを進める。 （現登録件数：25件） ⑴　大船渡市防災学習館（第2分類）の第3分類への格上げ 映像資料展示環境の整備による ⑵　追悼施設「祈りのモニュメント」の第2分類への登録 祈りのモニュメント、津波伝承碑、犠牲者芳名板の完成による	⑴　追悼施設「祈りのモニュメント」が2月に完成、防災学習館に映像資料展示用機材（モニター・プレーヤー）を11月に設置。 祈りのモニュメントは第2分類に、防災学習館は第3分類に来年度登録できるよう申請手続きの準備を進める。 ⑵　3.11伝承ロード推進機構と共催で東日本大震災パネル展を実施。 期間：11月1日～7日　／　会場：サン・リアショッピングセンター 期間：11月8日～14日／　会場：おおふなぽーと 東日本大震災の実情と教訓等を映像やパネルによる紹介した。	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	・6月 岩手県へ登録申請	・市（防災管理室）	―
	津波伝承や防災・減災を学ぶ活動への支援	⑴　市内小・中学校、高校等からの依頼により防災学習（出前講座）を実施する。大船渡高校定時制、こそだてシップでの出前講座を予定。 ⑵　市民等の震災伝承の機会を充実させるため、大船渡津波伝承会が企画するパネル展の運営を支援する。会場の確保やイベント告知など、連携を図っていく。	⑴　市内小学校、高校及び団体からの依頼により防災学習（出前講座等）を行った。 ・10月6日、大船渡東高校1年生78人を対象に座学、10月11日、機械電気科1年生20人を対象に実技（プライベートテント、段ボールベッド設営）を実施。 ・11月27日、赤崎小学校4年生16人を対象に座学と実技（防災倉庫見学）を実施。 ・12月9日、国際交流協会主催「にほんご交流カフェ」において、市内等外国人20人を対象に座学と実技（津波避難の仕方）を実施。 ⑵　おおふなぽーと内での企画展示の実施について、市観光物産協会、庁内関係課と検討を進める。	・市民 （児童・生徒含む） ・来訪者	随時	・市（防災管理室） ・市観光物産協会 ・大船渡津波伝承会	―
その他	ゲートウェイの役割、ネットワークの企画・運営	【総合案内】 ・ゲートウェイとして、来訪者へのパンフレット配布や施設紹介など総合案内を行う。 ・エントランス内にデジタルサイネージ、パンフレット、祈りのモニュメント「未来へ祈る」碑文原本（寄贈品）などを一体的に展示する防災学習コーナーを設置し、案内窓口の機能充実を図る。 【コーディネート業務】 ・教育旅行誘致に向けた旅行会社との商談、視察を含めた教育旅行の受入に対応する。 ・観光施策との一体的な事業展開や防災学習ツールを提供する企業などとの連携が必要であることから、市観光物産協会を始め、キャッセン大船渡や候補DMOなどと連携・協力した取組の可能性について意見交換を行う。 【ネットワークの企画・運営】 ・防災学習ネットワーク事業の推進には、専任スタッフの配置、それらに係る予算の確保といった課題があるが、事務局的役割を担える人的配置（R7）に向け、所要の予算や適任者等の確保について庁内関係課と詳細を検討する。	【コーディネート業務】 ・教育旅行誘致に向けた旅行会社との商談（東京、大阪、函館、札幌）、視察を含めた教育旅行の受け入れ（市外小・中学、高校7校9回）に対応した。 ・コーディネート業務の遂行には、専任スタッフの配置、所要の予算の確保といった課題があることから、市及び市観光物産協会の既存事業でできる限りの対応をしながら、より良い方法を模索する。 【ネットワークの企画・運営】 今後、ゲートウェイ機能の充実、防災学習ネットワーク事業の推進を図るため、観光施策との一体的な事業展開やキャッセン大船渡など防災学習ツールを提供する企業などとの連携が必要であることから、そうした企業をはじめ、庁内関係課等と情報交換・共有等を行う。	市民 来訪者	・通年 総合案内、商談等 ・5月 防災学習コーナー設置 ・随時 キャセン大船渡、候補DMOとの意見交換	・市（防災管理室・観光交流推進室） ・市観光物産協会	―
	防災学習館の運営	漁村センター指定管理者である赤崎地区振興協議会に以下の業務を委託し、防災学習館の管理・運営を行う。 （利用者目標：500人） ⑴　管理運営業務 防災学習館の予約受付、清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充などを行う。また、エアコン設置を検討。 ⑵　館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るため、来館者の案内、展示物等の説明を行う。	赤崎地区振興協議会に以下の業務を委託し、防災学習館の管理・運営を行った。（令和5年度利用実績：231人） ⑴　管理運営業務 防災学習館の予約受付、館内・施設周辺の清掃、照明器具や展示機器の管理、消耗品等の補充を行った。 ⑵　館内ガイド業務 来館者に対して、震災の経験や教訓、自然災害の備えなどについて伝え、防災・減災に関する知識の普及と意識の啓発を図るため、来館者の案内、展示物等の説明を行った。	漁村センター指定管理者	通年	・市（防災管理室） ・赤崎地区振興協議会	【管理運営業務】 384,000円 【館内ガイド業務】 72,000円
	協議会の開催	事業計画案、事業実績等について協議する。 第1回会議を5月、第2回会議を2月に開催予定。	⑴　令和5年5月17日　第1回会議開催 令和4年度事業実績、令和5年度事業計画案を協議。 ⑵　令和6年2月1日　第2回会議開催 令和5年度事業実績の協議、「祈りのモニュメント」整備状況の報告。	協議会委員	令和6年5月 令和7年2月	・市（防災管理室）	【委員謝金・旅費】 75,000円